

## ハルパト<sup>®</sup>(維持：4投1休)【血液】療法

### 注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		ハルパト <sup>®</sup>	治療のお薬です。腹部に皮下注射します。 おへその周りを時計回りに注射します。

皮下投与が困難な場合(血小板が低いときなど)には、静脈投与を行うことが有ります。

### 内服薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		レタ <sup>®</sup> ックス錠	治療のお薬です。注射の前に服用します。

### 外用薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		ジ <sup>®</sup> フルア <sup>®</sup> レト <sup>®</sup> ナト軟膏	注射した部分の発赤や痒みに使用します。

### 投与スケジュール

薬品名	日数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
ハルパト <sup>®</sup> 注射用3mg		↓							↓							↓							↓						
薬品名	日数	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
ハルパト <sup>®</sup> 注射用3mg																													

投与間隔：1週間に1回投与。4回投与後、1週間お休みします。

## ハルボト(維持：4投1休)療法【血液】

## よく起こる副作用

## ★骨髄抑制

**症 状** 血液の成分をつくり出している骨髄に作用し、細菌などから体を守る働きをしている白血球や出血を止める働きをしている血小板、酸素を運ぶ赤血球の減少を起こします。その結果、感染症や出血、貧血などの症状があらわれやすくなります。

<代表的な症状>

- 感染症：37.5度以上の発熱・寒く感じる・ふるえ・のどの痛み・排尿時痛み
- 貧血：疲れやすい、めまい、頭がふらふらする、皮膚や顔色が青白い
- 出血：原因不明のあざ、歯茎からの出血、鼻血、月経量の増加、血が止まりにくい

**対 処 法** ○感染対策で最もポイントとなるのは、患者様自身の感染予防のセルフケアと感染の早期発見です。感染症をおこさないように、人ごみを避け、こまめにうがい、手洗いを行いましょう。白血球は一時的に下がっても、その後回復します。  
○貧血では症状の自覚のないまま、転んだりして事故を起こす危険もあります。日常生活では十分な休養をとりましょう。また、いきなり動かず、動き始めはゆっくりとするように注意して下さい。  
○血が止まりにくくなることがありますので、かみそりや爪きりのような鋭いものを使用する際には注意して下さい。打ち身や切り傷を作るような行為や激しい運動は控えるようにしましょう。歯ブラシも柔らかいものを使いましょう。  
○症状に応じて、薬剤の投与や、輸血をする場合があります。

## ★皮膚症状

**発 生 時 期** 投与初期より発現します

**症 状** 発疹や丘疹が高い頻度で起こりますが、かゆみや熱感などはあまりみられません。発疹の特徴：痛くもかゆくもない真ん中が盛り上がった赤いいろいろな大きさの斑点状の発疹

**対 処 法** ○ステロイドの内服や軟膏を投与します。投与により症状は改善しますが本剤の投与により再発します。

## ★末梢神経障害

**発 生 時 期** 投与回数が増えるにつれ症状があらわれる

**症 状** 手足の先がしびれたり、痛くなったり、感覚が鈍くなったり、冷感や温感など温度が感じにくかったりすることが高い頻度で起こります。

**対 処 法** ○このような症状が出た場合には医師に連絡ください。  
○症状を改善するお薬を使用したり、本剤の量を変更する場合があります。

## 頻度は少ないが注意を要する副作用

## ★間質性肺炎

**発 生 時 期** 薬剤投与後数日～数週間

**症 状** かぜのような症状(息切れ・呼吸がしづらい、咳、発熱など)がみられる場合があります。

**対 処 法** ○起きる頻度はまれですが、症状の軽いうち(風邪のような症状)から治療する必要があります。  
○上記の症状があらわれたときは医師、看護師、または薬剤師にお知らせください。

## ★心障害

## ★心障害

**発生時期** 投与初期～

**症状** 心臓に影響がみられることがあります。全身のむくみ、脈のみだれ、息苦しいなどの症状があらわれます。

**対処法** このような症状があらわれた場合はすぐに医師にお知らせください。

## その他の副作用

### ★発熱

**発生時期** 薬剤投与当日～翌日

**症状** ○一過性の38℃前後の発熱が起こります。かぜ症状をともわないのが特徴です。

**対処法** ○発熱が長く続く場合には感染症が起きている可能性もあるため速やかに医師に連絡ください。

○発熱とともに咳などのかぜ症状をともなう場合は肺障害の可能性もあるため速やかに医師に連絡ください。

### ★その他

**症状** 食欲不振、吐き気、便秘、下痢、倦怠感、注射した部分の腫れや痒み等が起こることがあります

**対処法** ○症状により、対症療法を行います。

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するときの一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもとに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

**副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。**

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院（薬剤部）

